

地域をつなぐ「檣橋公民館出前講座（全5回）」

概要

檣橋地域をつなぐ要（かなめ）になって「檣橋の輪」を築き、広げていきたいと考えている当館だが、地域の方で当館の場所を知らない方も多し。地域の隅っこの、小中学校からも遠く離れた場所にあり、「交通事故が心配で子どもだけで公民館に行かせられない。」という保護者も多い。公共交通機関の便も悪く、市立の公民館ではないので市所有の送迎バス等を活用することもできない。それならばいっそ、人（特に子どもたち）が集まる場所に公民館が出かけて行って講座を開設しようと考えた。

講座内容

夏休み期間に千葉市社会福祉協議会檣橋地区部会が檣橋小学校で開催する「夏休みカレー食堂（全5回）」に出向き、下記のような夏休みの講座を体験する場を提供した。近隣の千葉県立檣橋高等学校福祉コースの生徒にもボランティアでの参加を呼びかけ、協力していただいた。

【目的】

地域を良くしていくべき拠点施設の公民館として、夏休みの子どもたちを見守りながら学習のきっかけづくりを応援し、市民と公民館の交流を図ることで、地域での学びの広がりをめざす。

【各回の内容】

第1回 令和7年7月30日（水）

「しゃぼん玉を作ろう」



公民館が用意した形や大きさの違う色々なアイテムを使って、しゃぼん玉を作り、でき方の違いを観察する子どもたちの姿が見られた。

第2回 令和7年8月6日（水）

「バルーンアート体験しよう」



ゴムの伸ばし方やひねり方、ひねる場所、力の加え方等を工夫しながら、各自独自のアプローチのし方で作品作りに熱中していた。

第3回 令和7年8月13日（水）

「ヨーヨー釣りやスーパーボールすくいを楽しもう」



紙をはったボイの角度やすくう場所、水槽内の位置等の条件を考えながら、一生懸命ヨーヨー釣りやスーパーボールすくいに挑戦していた。

第4回 令和7年8月20日（水）

「飾りパンのアクセサリーを作ろう」



初めて触った硬く焼いたパン生地に驚きながら、色鉛筆やサインペン等の道具を工夫して、思い思いのイラストや文字を書き込んでいた。

第5回 令和7年8月27日（水）

「ハンドタオルでくまのぬいぐるみを作ろう」



ハンドタオルを折りたたむ場所や、ひねり方を試行錯誤しながら、自分オリジナルのぬいぐるみを作りあげていた。男子中学生の参加もあった。

【参加者の感想】（地域の方、参加した児童の保護者の方等より）

- ♣ 去年は、食べ終わった後、走り回ってしまう子がいましたが、今年は居場所を作っていたので良かったです。ありがとうございました。
- ♣ カレー食堂全ての回に出前講座をしていただき、感謝しかありません。公民館の職員の方皆さん、本当にありがとうございました。今後も地域との繋がりを持っていたけると助かります。
- ♣ 今日は何が始まるのかと楽しみにしていました。毎回違う内容なので、びっくりしました。
- ♣ 子どもたちは大喜びでした。遠くからでしたが、楽しそうにしているのがわかりました。
- ♣ 公民館を身近に感じることができました。今度、実際に公民館に伺ってみたいと思います。

【参加者数】（講座で実際に活動した児童・生徒・保護者等 単位：人）

回	1	2	3	4	5	計
児童・生徒・保護者	33	31	45	30	25	164
ボランティアの高校生	4	8	8	9	10	39

成果と課題

子どもたちにとっては、楽しく学べただけでなく、大人や高校生との関わりを含む様々な体験すべてが貴重な学習機会となっていた。後に夏休みの自由研究テーマとして追究した子どももいたという。

高校との連携事業は初の試みだったが、回を重ねるごとに協力者が増加。当初は受動的だった高校生も次第に自主的に行動するようになり、当館主催の別講座への協力を申し出た生徒も20人にのぼった。将来の社会教育人材の育成にも貢献できた。

上記の参加者数の他に、「夏休みカレー食堂」のスタッフが各回20人程度、講座の様子をのぞきに来てくださっており、総勢約300人の方に、公民館の講座に関わっていただいた。檣橋小・中学校の児童・生徒からの当館主催の冬休みの講座への申し込み者数も前年度の1.7倍に増加した。地域の公民館としての存在を周知することにも大きくつながったといえよう。

令和8年度も、子どもたちの興味関心の高かった内容に精選したり、短時間でできる工程に工夫したりして同講座を実施したところ、児童・生徒の参加者数は200人に増加した。1回分の講座の企画・運営を高校生に任せてみたところ、なんと22人の高校生が参加。全5回でのボランティア参加も合計57人となった。社会教育上、大きな効果があることも実証できたので、今後も継続して実施していきたい。



令和8年度の講座より